

# 第3次八潮市男女共同参画プラン 策定意識調査 結果報告

「第3次八潮市男女共同参画プラン」を策定するための基礎資料として、平成19年9月に実施した男女共同参画に関する意識調査の結果について報告します。

全調査項目の結果が記載された報告書は、八潮市役所内840情報資料コーナーおよび八潮女性サロンにて閲覧ができます。

## 調査の概要

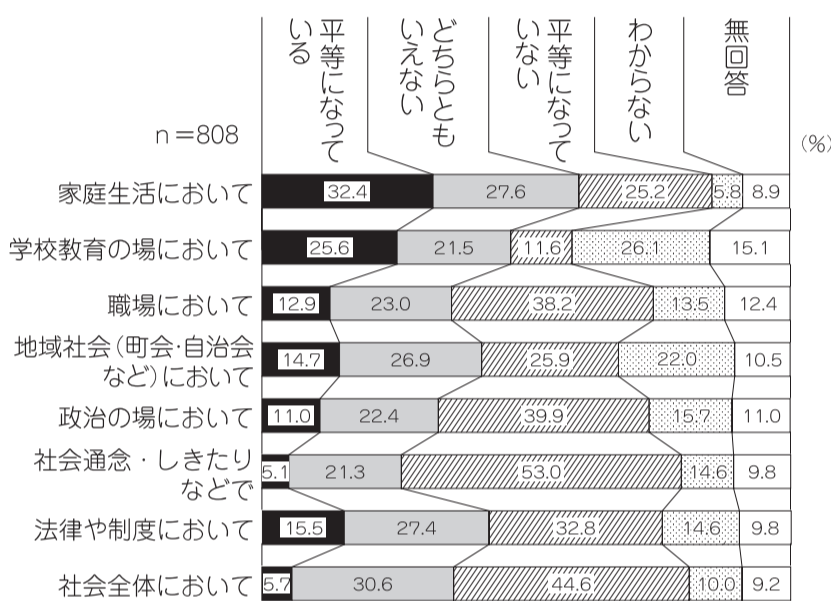
- ◆調査地域 八潮市全域
- ◆調査対象 八潮市に居住する満20歳以上の男女個人
- ◆調査方法 郵送による配布回収
- ◆調査期間 平成19年9月20日～10月5日
- ◆標本数 2,000
- ◆回収数 808 (回収率40.4%)

## 調査項目

- 8つのテーマについて、27の設問で調査を行いました。
- ◆男女平等意識について
  - ◆家庭について
  - ◆少子・高齢化について
  - ◆健康について
  - ◆就業について
  - ◆社会参加について
  - ◆配偶者間暴力について
  - ◆男女共同参画社会の推進に対する施策について

## 男女の地位の平等感

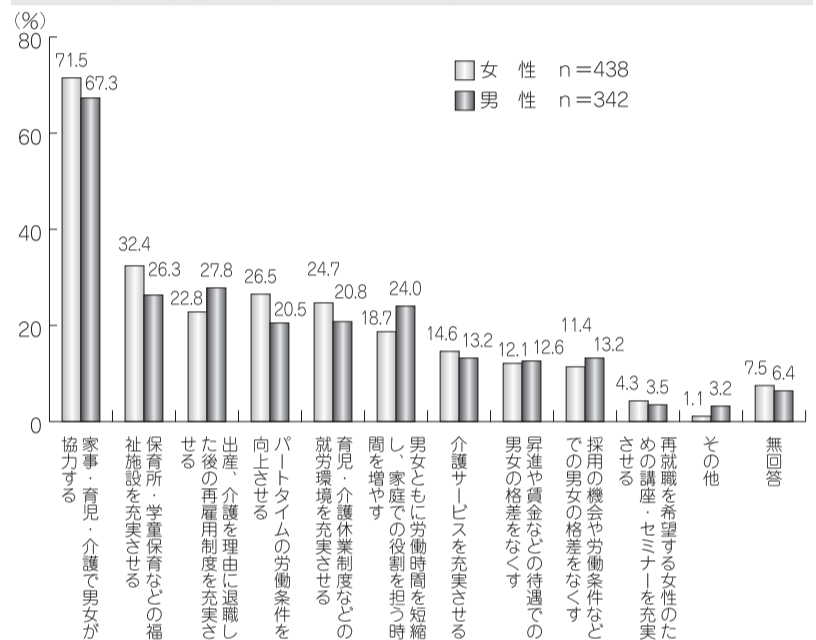
次の1～8の項目で男女の地位が平等になっていると思いますか。



8つの分野について男女の地位の平等感を聞いたところ、「平等になっている」は[家庭生活において]が最も多く、3割を超えています。「平等になっていない」は、[社会通念・しきたりなどで]と[社会全体において]が4割を超えており、不平等感が強くなっています。

## 仕事と家庭の両立のために必要なこと

男女が共に仕事と家庭での役割を両立させていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。



仕事と家庭の両立に必要なこととしては、「家事・育児・介護で男女が協力する」が突出して多くなっています。

## 子育て相談を通して見えてくるもの (男性を家庭に取り戻すために)

従来の「夫は仕事、妻は家事、育児」という性別役割分業は、子育てを女性にまかせ、女性の社会参加や男性の家庭参加をはばんできました。

子育て相談を通して感じることは、子育ての負担と日々の生活の忙しさの中で社会から隔絶され、自分を見失ったような不安を感じ、時間的にも精神的にも余裕を失い、その不満や苛立ちを子どもに向け、ぶつたり、けつたり、ひどい言葉をあびせてしまい、そのことを深く後悔している母親が多いことです。母親の多くは、子どもを精一杯かわいがろうとし、一生懸命子育てに励んでいます。ときとしてキレてしまう。虐待とみなすことはできないけれど、真中のグレーゾーンにあたる、そうした状況が広がっていることです。

母親が苛立ちを子どもに向けてしまう背景には、大人になりきれない母親自身の問題もありますが、父親である夫が、男性として、父親としての自覚がなさすぎ、家庭の中で母親と共に育児を担っていかうという姿勢に欠けることも問題です。子育てを男女の対等なパートナーシップのもとで共に担っていくとき夫婦の絆も強まり、母親の精神も安定し、子育ての負担を軽減させると考えます。

子育てを共に担っていくためには、男性の働き方も見直されなくてはなりません。遠距離通勤で朝早くから出かけ、残業、残業で帰宅が遅くなる現状では、育児参加も困難です。政府の少子化対策として、今世紀に入ってからワーク・ライフ・バランスの実現が目指されるようになりました。また、少子化対策の気運に力を得て、子育て中の母親が社会全体で子育てを担っていかうと社会に働きかけているグループも出てきています。

このように、自身が直面している問題から取り組み、男女共同参画社会の実現を目指していきたいものです。  
(子育てアドバイザー)



## 10年後の主な数値目標



女性の就業率  
(25～44歳)  
現状 10年後  
64.9% 69～72%

週労働時間  
60時間以上の  
雇用者の割合  
現状 10年後  
10.8% 半減



第1子出産後の  
女性の継続就職率  
現状 10年後  
38.0% 55%

